

ホームID	ホーム名		法人名			評価日		
2821	ライフ&シニアハウス緑橋		株式会社生活科学運営			H28.11.13		
評価機関	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク					H28.12.14		
評価結果								
スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	B	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	B	B	6.2.4	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	非該当	非該当	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	B	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	C	6.2.9	B	B
1.3.3	A	A	2.4.2	A	B	6.3.1	B	B
1.4.1	B	B	2.4.3	A	A	6.3.2	B	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	C	C
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	B	B	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	B	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	B
1.4.7	A	A	3.1.3	B	B	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	A	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	B	3.1.6	B	C	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	B	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	B	B	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	B	B
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	B
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	非該当	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	B
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	B	B
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	B	5.2.4	A	B	7.6.2	A	A
2.2.11	A	B	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	B			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
2-2-1	見学の希望は、関西エリアの入居相談室で受け付けているが、ハウスに飛び込みの見学希望でも、柔軟に受け入れ、入居相談室の担当者・ハウス長等が説明を行っている。見学時は、パンフレットを使って、写真やハウスの立地上のメリットとして駅近、スーパー・医療機関の充実等生活上の利便性のあることを説明する他、イベント紹介、生活コーディネーターの役割等を記載したハウス独自の説明ツールも活用して、理解を促している。
2-4-3	事故防止員会が、事故とヒヤリハットの判断基準を明確にすることで、ヒヤリハット報告が多く提出されている。報告は3日間掲示して職員に周知を図るとともに、ファイリングしていつでも確認できるようにしている。さらに、事故は決められたルールに従わないことから発生するとして、「決められたルールを守ろう」をテーマに、毎日、職員が今日の目標を選択・表明し、業務日誌で結果を確認することで振り返りを行い、職員の意識を高めている。
4-2-2	入居者に向けた年間行事予定を組み、毎月のレクリエーション計画を策定している。ライフ、シニア双方のものを用意する他、合同で行うもの等、それぞれが参加しやすい企画を計画している。また、行事として、盆踊り・コンサート・バスハイク・クリスマス会などさまざまな楽しみを起案している。実施後は、報告書に参加人数とともに反省点や行事实施上の課題等を記して、次の開催に備えている。
6-2-8	シニアの家族等には毎月「緑橋通信」を送付するとともに、必要に応じて相談員から電話やメールで頻繁に入居者の生活や状況を情報提供している。また、運営懇談会の議事録を送付する他、初詣・お花見・納涼祭等ハウスの行事に参加してもらえるよう案内を行っている。さらに、ライフの入居者家族にも電話やメールでの連絡に加え、面会の際には声を掛けている。今後はライフの家族にも通信を送るなど新しい取り組みが期待される。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所見
1-4-1	法人において、階層別研修計画を策定しており、ハウス内では、積極的に職員が参加している。一方、各職員の職責、経験、求める能力、研修希望等を踏まえた一人ひとりの研修計画については作成されていない。職員のキャリアアップを図るうえで、職員の研修希望とホームとして必要とされる知識やスキルを明示して、職員と個別面談等を行い、OJT、Off-JT、自己研鑽による育成計画の策定と実施が望まれる。
2-4-1	入居者からの金品の授受については、受け取らないこと、やむを得ず受け取った場合は、ハウス長に報告する旨の書面を用意しているが、ハウス内職員研修等で周知されていない。受け取りを拒否することで、利用者との良好な関係性に支障を与えることも想定され、職員のモラルの低下につながるリスクもあり、受け取った際の速やかな入居者への対応とホーム長への報告等、マニュアルや規程を定め、定期的に職員に周知することが求められる。
5-2-4	ハウスでは、管理栄養士や調理員を配置し、入居者の要望や状態に応じた食事の提供に取り組んでいる。ライフ入居者はもとよりシニア入居者は高齢化とともに介護度も上がっているため、栄養管理が不可欠になってきている。現在、栄養管理は看護師が中心に行っており、ケース会議等に管理栄養士は参加していない。今後は、入居者それぞれの栄養管理に力を入れるとともに、管理栄養士だからこそできる入居者支援に期待したい。
7-4-5	排泄用具や用品が必要となった入居者に対して、一人ひとりの状態に合わせてポータブルトイレやリハビリパンツ等の導入の支援は行っており、身体に合うものを取り入れようとカンファレンスで検討している。しかしながら、その経過は記録に残されておらず、結果の確認もできていない。いつ誰がどのように対応し、状態観察を行い、最終的にどのようにしたかまでを、記録に残していくよう取り組まれない。